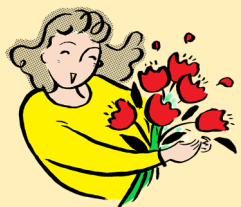


あなたの声をまっすぐ届けます

原発ゼロ、リニアはストップ

気候危機の打開へ、原発や石炭火力発電をやめて、再生可能エネルギーに切り替えるのが、世界の流れ。原発はゼロに。

住民の命の水、南アルプスの自然環境を守ります。



ジェンダー平等、憲法9条を守る

一人ひとりの人権が尊重され、自由に生きられるジェンダー平等の社会をめざします。自由な社会と対極にあるのが戦争です。

日本を再び海外で戦争する国にしてしまう、敵基地攻撃能力の保有、軍事費2倍化を許さず、憲法9条に基づく平和外交で、日本とアジアの平和を守ります。

子ども医療費、給食費はゼロに

憲法26条の「義務教育は無償」のとおり、県の財政支援で小中学校の給食無償化を実現します。

370億円のドーム球場より 水害対策に全力

大規模災害から県民の命と財産、暮らしと営業を守ります。

津波浸水地域に、370億円のドーム球場を作るより、浸水の被害を受けた安間川や馬込川の河川改修を優先します。



統一協会と関係を断て

反社会的団体が政治とつながり、半世紀にわたって政策にまで影響を与えていました。

関わりのある議員・候補者は、県民の代表にはふさわしくありません。

くらし・福祉
最優先の県政に



日本共産党

ひらが 平賀たかしげ 高成

1954年生まれ。追分小、北部中、城北工業高校、静岡大学電子工学研究所の職員として働きながら同大学工業短期大学部卒業。静大教職組執行委員など労働運動や青年運動に参加。96年10月の総選挙では、比例東海ブロックから当選。運輸委員（現国交省）、災害対策特別委員として活躍。2015年県会議員1期。現在、中区くらし・雇用・営業対策委員長。家族…妻、長女、次女、孫2人の6人家族。趣味…映画鑑賞、釣り、ツーリング、料理

県議会にどうしても必要です



合言葉は「ひ」「ら」「が」

今の政治に足りないものは、弱者に対する優しさ誠実さです。お孫さんのために料理もこなす平賀さん、県民のことも家族のように考え、優しく誠実な政治をしてくれる人です。統一協会と関係のある議員に負けないで欲しい。「ひ」は人のため、「ら」は未来のために、「が」は頑張る男、三つ合わせて「ひらが」を合言葉に、全力で応援します！

ひらが高成応援団 藤林あみさん

私たちの願いを託します

物価上昇や医療費負担増など私たちの生活がますます苦しくなる中で、暮らしを守ろうとする日本共産党への期待が高まっています。まずはこの静岡県で平賀さんを議会に送って、私たちの思いを届けてもらいましょう！

浜松佐藤町診療所所長 水谷民奈さん

やさしさ・誠実・こだわりの人

平賀さんは、やさしさと誠実さ、こだわりの強さをもって議員活動をされるかたわら、自治会副会長として積極的に私たちを支えてくれました。小さな声でもしっかり受け止め県政に届けてくれる人。ぜひ頑張ってください。

前東上池川自治会長 晋山吉夫 さん

原発・リニア問題リードできる人

前回の県議選の結果は実に無念でした。今国政では旧統一協会＝勝共連合問題など、県政では原発やリニア新幹線問題などで、日本共産党の存在意義が益々重要になっています。今度こそ平賀さんを、県政に送り出しましょう。

弁護士 塩沢忠和さん



子どもは未来の宝です



困りごとがあれば、すぐとんできて、自分のこととして話を聴いてくれ動いてくれる。誠実を絵にかいたような人！

今、保育の現場は崖っぷち。一人ひとりの子どもの育ちを保障する保育を願うのはもう限界です。平賀さんの当選で、誰もが安心して安全な保育を受けられる社会に。

保育士 知久昌子さん

市民しんぶん
2・3月号外

日本共産党静岡県西部地区委員会
浜松市中区上島 2-13-17
tel 053-474-2145

日本共産党西部地区委員会は、
ひらが高成の活動を紹介します。

ひらが高成



寡黙な少年時代

小学校の時は足が速く、体育と図画工作が得意な寡黙な子どもでした。将来の夢は動物園の飼育係でした。9歳の時に病気で母を亡くし、姉、弟の3人で支え合って成長しました。祖母は「60歳過ぎて第二の子育て」と頑張ってくれ、毎晩、肩や首をもんであげるのが日課でした。

日本共産党との出会い

私は「要領をわきまえ、立身出世を目指すのが社会人の生き方」と思っていました。ところが、就職した日に職場を案内してくれた先輩は、自分のことは二の次にして他人のために頑張る人でした。こういう人がいるのかと感動しました。それが日本共産党との出会いでした。



休日は夕食作り

子どものころは家が貧乏で、みんなでお寿司を食べることが夢でした。

「雑誌アミューズ」で料理研究家の魚柄仁之助さんの「作ってみちゃろ」を知り、200～300円そこそこで、美味しいツマミや料理ができることがわかり「これだ！」と開眼しました。

休日には買い出しや夕食作りは私の仕事。みんなの笑顔が最高です。食器洗いも結構楽しいものですヨ。

恩師の指摘で リーダーシップの発揮

中学生になってからバレーボールを始めました。高校3年ではキャプテンを務め、市のスポーツ祭典では3位入賞でした。恩師からリーダーシップ発揮の大切さを教えられ、それを乗り越えたことが、青年運動や現在の活動に生きています。

政治を変えるしかない

父や祖母の姿を通して、「世の中になぜ貧富の差があるのか？」との素朴な疑問を持っていました。日本共産党に出会う中で、政治を変えなければまじめに働く人たちが報われないことを痛感しました。21歳で入党し、32歳で市議選に挑戦して以来、党活動の牽引車として奮闘してきました。

